

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203295		
法人名	有限会社パルティール		
事業所名	グループホーム オリーブガーデン		
所在地	倉敷市亀山564-1		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosvoCd=3370203295-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成24年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の尊厳・個性を大切にしたいきめの細かい介護をめざしています。決して抑制することなく自由で生き生きとした生活を提供しています。認知症が重度の方でも根気強く寄り添い落ち着いた生活を提供できるよう職員の介護力アップに努めています。また、看取り看護にも力を注いでいます。ご家族・医師・看護師と常に相談しながら個人個人の希望に添った終末期の介護、医療の実践に取り組んでいます。居住環境については当初よりもっと力を注いでいるところで、広くて住みやすく自由とプライバシーと快適さを大切にしたい生活を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関前にはオリーブの木が植えられ、建物は北欧風、前を通るだけで振り返ってしまいそうな素敵な外観である。玄関を入ると木目調で明るく、テーブルセットも用意されており、居心地がよい。フロアは天井が高く、広々としている。また、居室にはそれぞれトイレと洗面所が備えられ、プライバシーを守られやすい造りになっている。中庭の花壇は障害者の就労支援を受け入れており、交流のひとつになっている。地域に子供会やひまわり会、亀龍会、福寿会など年代別に集まりがあり、住民同士の繋がりが強く、地域力がある。お祭りや餅つき、お花見など多くの行事を行う上でも積極的に参加してくれ、協力関係ができています。主治医や薬剤師の協力もあり、医療と介護の連携が綿密に出来ており、利用者や家族、職員の安心感にもつながっている。また、管理者の明るい人柄もあり、職員の退職が少なく、安定した介護が提供できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲げ、職員の出勤時には必ず目を通し、心にとめるようにしている。入居者1人ひとりの思いを大切にした介護を心がけている。	理念をもとに建物を建てる時から利用者の尊厳を考え、各居室にトイレを設置など行っている。居心地のよい居住空間を作ることで、利用者はもちろんのこと職員も心地よく、ストレスを少なくすることができる。日々の支援をゆとりを持って対応できるよう環境面にも力を入れると同時に、理念を意識した支援を指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で自然に生活をしている。ホームの代表が昔から地域の居住者なので職員・入居者ともども地域の中で大切にされながら生活している。地域の集まり・行事に積極的に参加した事業所の行事にも協力してくれている。	地域力がしっかりとあり、とても協力的である。秋にはおみこしが来たり、大根やゆずを頂いたり、しめ縄作りや餅つき等近所の方の用意により行う等、交流が盛んである。また、地元の保育園、小、中学校との交流も恒例となっている。散歩しながら、近所の方の庭に行き、季節のお花を見せて頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な行事に参加したり、事業所の行事にも参加して頂いたりして、しっかり交流ができています。交流の中で地域の方々も認知症の方に対する理解も深まり、支援のあり方も自然に学んでおられると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には毎回地域の方々が多く参加してくださっている。サービスの内容、評価を話し合いその中で良い提案や意見・情報をいただいている。その内容は日々の介護に活かしており、とてもありがたく思っている。	民生委員、愛育委員、地域包括支援センター職員、他GH職員、近隣の方等地域の方が毎回多く参加している。転倒防止や振り込め詐欺など時事の情報交換やサービスに関する意見交換も行っている。顔なじみの関係になり、くったくのない話しができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の高齢者支援センター(帯江・豊洲)とは綿密に連絡を取り合っている。色々協力してもらっている。また情報も早くいただいている。退去者の中には地域の中で生活しておられる方もいるので支援センターと一緒にその方を支援している。	地域包括支援センターとの連携が主となっている。事業所に来てくれることもあり、情報交換や交流が綿密に行えている。成年後見人制度や生活保護、事業所を退所した方への支援の連携など相談しながら、行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制のない介護は事業所の最も力を入れているところで、代表者・職員共々良く理解できていると思います。施錠は全く行っておらず、介護も創意・工夫をし拘束のない介護を実施している。	身体拘束をしないケアについて、勉強会など職員に徹底して指導している。2つのユニット間の行き来やウッドデッキにつながる扉は自由に出入りでき、開放感のある空間作りをしている。やむを得ず、身体拘束が必要な場合の同意書など書類も整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてはよく話し合っている。言葉によるもの・介護放棄によるものなども含めてよく話し合っている。管理者は決して虐待がないように徹底的に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が安心して生活の継続がなされるよう、制度の活用・支援に努めている。家族の要望があったケースもあり、相談に応じ、制度を活用しまた職員も機会があるたびに学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧にするよう心がけている。質問には謙虚に対応している。改正の時など書面・説明会などにより迅速に対応している。家族の不安や疑問点を尋ね納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受け入れたり、家族会を開催したりして意見や要望を表せる機会を設けている。また日常的にも意見を遠慮なく表して頂けるよう機会や時間を十分に取っている。遠慮な時には市町村などにも相談できることを伝えている。	家族会を年に1回行っており、数名の方が参加している。普段の面会時にも遠慮なく話してもらえるよう努めている。家族が病気や先々の不安を話されることもあり、管理者から主治医に尋ねたり、相談に乗ったりしている。また、月に1度、家族へ本人の様子と写真を郵送している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎回のカンファレンスや計画作成者との話し合いの場などで意見や提案をよく聴いている。また日常的にも職員は何でもよく話し意見や提案をし、運営によく反映している。	管理者は毎月の会議に必ず参加し、職員の意見や提案を聞き、出来る事は検討し取り入れている。また、職員の有休取得や時間外手当の支給などの充実、働きやすく、居心地のよい職場作りに努めている。退職者も少なく、安定した介護の提供ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働き、やる気のでる職場になるよう配慮している。資格手当・毎年の昇給・労働時間の厳守・適正な時間外手当など就業環境は整っている。各自の向上心をととも大事にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多くもてるようにしている。特に最近では事業所内での研修の機会を度々もっており、介護の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム・他の介護事業所との交流があり、お互い情報を交換したり刺激しあったりしてサービスの質の向上に努めている。他の事業所からも良く訪問を受けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の不安や要望に真摯に向き合っている。安心してホームでの生活が始められるよう何度も話し合っている。入居前の担当者会議を必ず開いている。ケアマネ・医師などからの情報も介護に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関わりはとても大切なので、しっかり時間をかけてお話を伺うようにしている。家族の不安を取り除き良い信頼関係が築けるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が最も必要としている支援を見極めいろいろ方法を検討している。お試し入所など家族・ケアマネなどと相談しながら適切に対処している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理したり、買い物に行ったり、また洗濯・片付け・掃除・庭いじりなど生活のあらゆることを共にしながら共同で生活する喜び・安心感を感じていただき良い関係づくりを図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはよく協力していただいている。外泊したり家族と外出したり、また泊まっていたいたりしている。家族との会話は安心感につながっている。通院の援助も時にはして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの人がいつでも遠慮なく訪れることができるよう、来やすい雰囲気づくりを心がけている。職員も協力し、何時までも馴染みの人と良い関係でいられるよう配慮している。外出・外泊なども積極的に勧めている。	身内の結婚式や法事等へ職員が付き添い、一緒に出掛けるなど家族の協力を得て外出、外泊も支援している。また、戦友会に参加したこともあり、本人はもちろん他の参加者の方も喜ばれていた。毎月、写真付きの手紙を家族に送り、疎遠にならないよう発信を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴・性別・職業など全く違う人との共同生活なので、折り合って気持ちよく生活して頂くためには職員の適切な配慮が必要です。孤立することがないように共に支え合って生活する喜びを感じて頂きたいです。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後在宅で生活されている方の支援を継続しておこなっています。本人・家族の意向に添った生活になるよう支援しています。また退所後のご家族の訪問もありいろいろ相談にのっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いを把握し、本人の意向に添った生活になるよう職員は絶えず本人の声に耳を傾け暮らし方の検討を行っています。職員の都合によるのではなく本人本意の生活になるよう注意を払っています。	本人からの思いや意向の意思表示が困難な場合が多く、表情や身振り手振りから思いを把握するよう努めている。出来る限り、本人の意向に添えるよう、根気強く対応している。家族と本人の思いが違うこともあり、職員が間に入り本人の思いを伝えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネージャー・利用事業所等からしっかり生活歴・生活環境・サービスの利用状況などを聴き生活の把握に努めている。入居後も知り合いの方等から話を伺いこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で暮らしの現状の把握に努めている。毎日の生活を共にする中で心身の状態や過ごし方など現状の把握に努め絶えず情報交換をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員・看護職員・ケアマネージャー・管理者・家族などと随時担当者会議を開催しており、本人・家族の意向を尊重しながら現状に即した介護計画を作成している。	担当者によるご本人の状態の情報収集のもと、カンファレンスにて意見交換しケアプランを作成している。入退院の後や状況に変化があったときには随時ケアプランを見直している。介護面でご本人の出来ること促し、出来ないところをサポートするプランになるよう心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者ごとに介護の実践を詳細に記録し、介護計画の見直しに活かしている。職員間では絶えず情報を交換し現実に添ったより良い介護の実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々介護にタイムスケジュールはつくっておらず、その時々ニーズに合わせて職員が相談しながら柔軟に対応している。家族間での行事(葬式・結婚式・法事・誕生会など)にも積極的に協力している。訪問看護も受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーで買い物をしたり、近所のお宅にお邪魔させていただいたり、子供会・老人会・他の介護事業所・地域の集まりや行事に参加させて頂いたり、小学校・幼稚園の運動会に行ったり、様々なことで地域の恩恵を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医師はとても協力的で度々に往診に来てくださり適切な医療が提供できています。家族への説明や相談にも気軽に応じて下さり安心感があります。薬局も薬の管理・相談など医師と協力しながら良い対応をしてくれています。	今までの年月の積み重ねから、協力医との信頼関係の強さを感じる。2週間に1度の往診の他にも度々訪問し、利用者の様子を見たり、家族や職員の相談にも随時応じてくれる。入居前からのかかりつけ医への通院は家族にお願いしているが、情報を共有していくためにも通院時に情報提供書を持っていくなど検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は入居者の体調を良く把握しており、医師・介護職員と連絡をとりながら入居者の健康管理に努めている。緊急時においても、いつも連絡できる体制にあり、適切な対応をしている。家族も職員も安心している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の方は環境の変化に弱いので、入院はできるだけ短期間になるよう配慮してもらっている。入院時・入院中・退院時にも医療機関とは絶えず連絡をとり情報交換をしている。医師・ソーシャルワーカーなど関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応・指針についてはあらかじめ家族と話し合っている。家族・医師・看護師・管理者などと終末期のあり方について何度も話し合っています。	本人、家族の希望がある場合、看取り支援を行っている。その際には主治医から家族に対し説明をして頂き、家族の意思を確認した後、看取りの方針について職員を含め話し合いを行っている。医師もたびたび往診してくれたり、随時家族に説明してくれたり協力的である。	利用者の重度化も顕著にみられる。今後もいろいろな体操を取り入れるなど工夫して頂き、できるだけ現状維持が続くよう支援を期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の知識・初期対応について会議で話し合っており、職員は共通認識を持っている。また研修もおこなっている。急変時、医師・看護師・施設長への迅速な連絡ができるようにしている。急変時に備えて書類も整理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の災害対策に当施設も組み込まれており、事業所としても避難できる方法を常に話し合っている。年2回の防災訓練を実施して、災害に対する体制を整えている。	年2回、避難訓練を実施している。また、年2回防火用具の点検と同時に業者から使用方法や通報など指導を受けている。地域とのネットワークが築けており、緊急時には連絡網により地域へ連絡ができるようにしている。運営推進会議などで水害対策等についても地域の方と意見交換をしている。	管理者より緊急連絡網が古くなっているため、作りなおそうと思っているという話があった。緊急時に活用できるよう、改めて整備をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に一人ひとりの人格を尊重した言葉かけ・介護をするよう事業所の基本的な方針にしている。居室も各部屋にトイレ・洗面を備え、またドアも居室が丸見えにならないよう配慮しており、事業所の創立当初より最も大事な事と考えている。	各居室にトイレ、洗面台の設置やフロアから室内がまる見えにならない造り等利用者の一人ひとりのプライバシーを大切に配慮が見られる。職員の入社時にはプライバシー保護に関する署名をして頂き、退職後にも注意を促している。また、言葉遣いについてもカンファレンスで話題にし、指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が認知症になり、自分の思いや希望を表せにくい状態になっているので、職員は入居者の心に寄り添い、思いをくみとり、希望を表現することができるよう働きかけ、希望に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを職員の都合で決めるのではなく、個々の利用者の希望に沿った日々の暮らしになるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症になり自分の身だしなみができにくくなっている方がほとんどであるが、整髪・理容・整容・おしゃれ等、その人らしい身だしなみができるよう気をつけ援助している。ご家族も安心されるので気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好み・楽しみを大事にしている。入居者と一緒に楽しく買い物・調理をし、一人一人に合った食事を提供している。2ユニット一緒に食事をしたり、行事食を作ったりしている。お酒もたまにあります。	現場の職員が利用者の好みや栄養バランスを考え、献立を作成している。毎日、当番を決めて買い物に出かけたり。料理の下処理でもやしのひげを取ったりする等、利用者も一緒に行っている。家族会ではバイキング方式の食事会を催し、家族と一緒に食べて頂いている。外食も気分転換を兼ねてときどき企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に栄養士を配置しているので、1日を通じての栄養バランス・水分量には注意を払っています。また一人一人の身体の状態や食事習慣をよく把握して、個々に合った食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・義歯の清潔の確保など、職員が一人ひとりに合った口腔ケアをしています。また連携の歯科医からもアドバイスをもらっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレがあるので、排泄の習慣・パターンを大事にし、適切にトイレ誘導など排泄の自立を支援しています。	部屋の自分のトイレに誘導している。個人の排泄パターンに合わせ、早め早めに誘導するよう心掛けている。現在、おしめを使用している方も多く、オシメの種類を工夫したり、どこまでの介護が必要かを見極めることにより、オシメの使用量を減らしていきたいと考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸がよく動くよう体操をしたり散歩をしたり体を動かすようにしています。食事・水分量にも気をつけ、一人ひとりに合った工夫・努力をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴を楽しんで頂いています。一人一人の習慣・希望に添って曜日など決めず、楽しんで入浴していただいています。清潔保持のためにも適切に支援しています。	基本的に1日おきに入浴できるよう支援している。時間や曜日を決めず、本人に合わせて対応している。夜間浴を希望される方には夜間対応も行っている。脱衣所や浴室は広く、ゆったり、のんびり入れるよう工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はゆったりと広めで、寝心地の良いベッドが備えてあります。それぞれの好みに合わせて部屋の温度を調節したり、明かりを調節したり、優しく話しかけたり工夫しながら、安心して眠れるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師・看護師・介護職員が連携をとりながら適切に服薬の支援をしています。特に薬剤師は医師・看護師と連絡を密にして服薬管理をし利用者が困ることがないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ガーデニングを楽しんだり、編み物をしたり、歌を歌ったり、パズルを楽しんだり、個々の好みに合わせて楽しく過ごされています。少しお酒を飲まれる方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩はほぼ毎日しています。ドライブにもよく出かけています。景色を見て季節の変化を楽しんでもらっています。みんなで出かけることもあれば一人ひとりの希望で出かけることもあります。買い物・外食といった楽しい外出もあります。	ほぼ毎日、食材の買い出しや散歩など外出している。中庭にもスロープでいつでも降りる事ができる。また、ドライブやお花見、紅葉狩りなど季節毎の外出行事も企画し、喜ばれている。家族の協力により、外出や外食に出かける方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預からないし持ち込まないことにしている。しかしお金を持っている安心感がある方がいたり、買い物の楽しみがあったりするので、一人ひとりの希望・状態を考慮しながら適切に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡をとったり声を聴いたりするのは人として当たり前のことなので、家族も安心されるし普通に電話をしたり、手紙のやりとりもしている。職員が適切に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりには最も力をいれている。壁に飾るものも質の高い品の良いものを配置している。普通の家庭の居間に置かないようなものは決しておかないようにしている。居心地の良い空間づくりには人の尊厳にも関わる事なので常に気を配っている。	フロアの天井は高く、ソファも多く、利用者はそれぞれの居場所でゆったりと過ごしている。所々に柱があり全体が見渡しづらくなっている。職員から丸見えにならない空間を作ることで利用者にとっては落ち着ける空間を作り出している。また、スプリンクラーの色を天井の色を合わせ、分かりづらくするなど、随所に居心地のよい空間作りへのこだわりを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広くゆったりした空間になっている。一人になれるようなスペース・畳コーナー・ソファ等があり、個人の思いのまま穏やかに自由に過ごせる空間づくりになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広さも確保され、落ち着いた作りになっている。家族・本人と相談しながら使い慣れたものを備えたり、写真・絵・花などを飾ったり、本人の落ち着ける空間づくりを支援している。	居室にはトイレと洗面所が設置されている。備え付けのベッドがあり、その他にタンスや仏壇、若き日の思い出の品など自宅から持って来ており、落ち着ける環境作りを支援している。利用者自身の作品も飾られている。また、利用者が安全に移動ができるようテーブルを配置するなどの配慮も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力を活かした自立した生活ができるよう、またできる事は継続してできるよう、普通の生活が当たり前ができるよう生活環境を整えることに力を注いでいます。		